

2010年3月5日

主催 (財) ミズノスポーツ振興会

(財) ミズノ国際スポーツ交流財団

「2009年度 ミズノ スポーツライター賞」受賞者決定

(財) ミズノスポーツ振興会及び(財) ミズノ国際スポーツ交流財団では1990年度より「ミズノ スポーツライター賞」を制定し、スポーツに関する報道・評論およびノンフィクション等を対象として、優秀な作品とその著者を顕彰しています。

3月5日、グランドプリンスホテル高輪で2009年度選考委員会を開き、受賞作品および受賞者を以下の通り決定いたしました。

なお、この「ミズノ スポーツライター賞」の表彰式を4月21日にグランドプリンスホテル新高輪で行います。

【ミズノ スポーツライター賞 最優秀賞】 (トロフィー、副賞100万円)

- ・「フットボールの犬 欧羅巴 1999 - 2009」 宇都宮 徹彦 (東邦出版)

【ミズノ スポーツライター賞 優秀賞】 (トロフィー、副賞50万円)

- ・「日本レスリングの物語」(ファイト&ライフ連載)
柳澤 健 (発行元：フィットネススポーツ)

詳細は別記の通りです。

記

名 称：2009年度 ミズノ スポーツライター賞

制 定 目 的：スポーツに関する優秀な作品とその著者（個人またはグループ）を顕彰して
スポーツ文化の発展とスポーツ界の飛躍を期待するとともに、これからの
若手スポーツライターの励みになる事を願い制定

選 考 対 象：主として新聞・雑誌・単行本などを通じて書かれたスポーツ分野の報道・評論・
ノンフィクション等で、当該年度に発表されたもの

選 考 委 員：委員長 岡崎 満義 氏（元㈱文藝春秋取締役、「Number」初代編集長）
委 員 杉山 茂 氏（スポーツプロデューサー、

元NHKスポーツ報道センター長）

〃 高橋 三千綱氏（芥川賞作家）

〃 ヨーコ ゼッターランド氏（スポーツキャスター）

〃 水野 正人 氏（(財)ミズノスポーツ振興会 会長）

※順不同

対 象 者：日本人および日本在住の外国人

受賞者及び選考理由：

●「フットボールの犬 欧羅巴 1999 - 2009」 (東邦出版)

宇都宮 徹壺（うつのみや てついち）

一人のフットボールをこよなく愛する写真家、写真だけでは喰えないので物書きも兼ねる。同業者が決して足を踏み入れないような辺境の地をほっつき歩いてはフットボール好きの子どもたちやクラブに熱中する大人たちをカメラに収める。「いつも腹を空かせながら、地を這うような視線でフットボールの匂いがする場所を捜し求める」「フットボールの犬」というのが冒頭に記された著者のいささか自虐的な自己紹介である。

確かに著者の「ほっつき歩き」は半端ではない。本書はこの10年間にわたる、世界を股に掛けたフットボール遍歴の旅の記録だが、イギリスやイタリアのような本場はもちろん、日本人では誰も知らないようなフェロー諸島という辺境中の辺境にも出かけてユーロ2004の予選を観戦する。著者は章の最後に「気が付けば、羊の島の人々は、さりげなく、しかし明快に、フットボールの始原的な喜びを私に提示していた」と書き付ける。本書の中で白眉と言える章である。

ある章では、その地域の歴史や文化に対する鋭い視点と優しい共感が独特の輝きを見せている。アイルランド、エストニア、マルタなどの章が特に心に響く。ヨーロッパフットボールの歴史の奥深さ、日常生活に根付いたローカルなフットボールの魅力、そして現代社会の政治的・経済的パワーバランスを如実に反映したそれぞれの地域のフットボール事情が浮かび上がる。日本の取材網には到底ひっかからないような「マイナー」で「マニアック」な視点から独特のサッカー観が展開される。

また、本書のストーリー（文章）を補強し、メリハリを与えているのがヨーロッパ各地の街とそこに生きる人々、スタジアム、サポーター、選手などの写真である。確かに著者はライターであり写真家なのである。写真を見ているだけでも十分に楽しい。

● 「日本レスリングの物語」 (ファイト&ライフ連載)

(株式会社フィットネススポーツ)

柳澤 健 (やなぎさわ たけし)

日本におけるレスリングの誕生から今日までの80年余りを綴った歴史書とも呼べるような連載であり、同時に多士済々な人物が生き生きと描かれた大河ロマンのような面白さも併せ持つ。歴史をたどることが可能になったのは、国立国会図書館の新聞資料室に「八田一朗コレクション」という99冊ものスクラップブックが残されているからだ。八田は、これが戦火で失われることを恐れて、在米の知人に預けていた。

この八田一朗こそ、この連載の主人公と呼べる存在だ。早稲田大学出身の柔道家であり、1932年ロサンゼルス五輪のレスリング代表選手でもあった。

連載終盤、八田に匹敵する先見性の持ち主として現日本レスリング協会会長の福田富昭が登場する。特筆すべきは女子レスリングの可能性にいち早く気づいて信念を持って取り組み、今日の隆盛にまで育てた功績である。

女子レスリングを筆頭に史上最多のメダルを獲得したアテネ五輪で、日本選手団全体の強化委員長を務めたのは福田だった。福田はトップアスリート専用のナショナルトレーニングセンターの設立を働きかけて完成後はセンター長となり、日本スポーツ界全体のリーダーとして「国策としてスポーツに取り組むべき」といくつもの事業に着手している。

八田一朗、福田富昭といった人物がレスリングから出た理由を、著者は競技のもつ国際性に求める。数々の困難と理不尽を逞しく生き抜いてきた日本レスリングはやがてまた天才を得、より興味深い物語が紡がれていくだろう、と著者はこの長編を結んだ。

数多くの関係者への取材を中心にしたオーソドックスな手法を柱とし、生き生きとした人物を描き出しながら、わが国における一つのスポーツの誕生からの歴史を綴るという大変意欲的で非常に読み応えがある作品である。

以上

(お問合せ先)

財団法人ミズノスポーツ振興会事務局	内橋	TEL. 03 (3233) 7009
ミズノ株式会社 広報宣伝部 東京広報課	高橋・木水	TEL. 03 (3233) 7037
ミズノ株式会社 広報宣伝部 大阪広報課	薬師寺・大澤	TEL. 06 (6614) 8373